

読書意欲に関する調査研究

－「読み聞かせ」による読書指導を通して－

笹 倉 剛

はじめに

最近、児童生徒の読書離れが問題になっている。文部省や学校図書館協議会の読書調査では、小・中・高等学校の児童生徒の不読者（1カ月に1冊も本を読まなかった者）が過去最高に達した。このような読書離れは、児童生徒の学習面や人格形成の面などにも大きく影響していると考えられる。

日本の学校教育において、過去にも読書指導が話題になったことはあるが、現在のような顕著な読書離れの状況ではなかった。このような現状をふまえるとき、我が国の学校教育においても読書の意義や課題を見直す時期にきていると思われる。

すべての学習の基礎は言語能力にあると考えられる。「The Power of Reading」(Stephen Krashen, 1993)では、多くの教師が経験的に読書量と学力の間に相関関係があると考えてきたことを、実証的研究をもとに紹介している。とくに、この本では、Free Voluntary Reading (自主的な自由読書)の効果や影響について述べている。

このような自由読書を学校の中でどのように推進していくのかを調査研究により分析を行った。

1 自主的な自由読書の意義

Free Voluntary Readingとは、課題読書でなく、児童生徒が自主的に行う読書のことである。とくに本書では、子ども達やあまり読み書きのできない大人達が、自分の喜びのために自主的な自由読書を始めるなら、読書理解力、文章表現力、文法力、綴字力、語彙力などの点でより優れたものになることを様々な調査研究から紹介している。

「The Power of Reading」では、自主的な自由読書の仮説として、次のようにあげている。

表1 読書の仮説

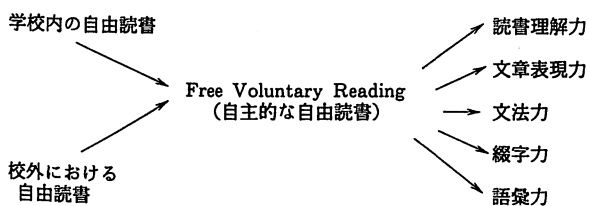


表1では、学校や校外における自由読書を総称して、Free Voluntary Readingと呼んでいる。この自主的な自由読書を推進していけば、読書理解力等に大きな効果があると考えている。

さらに、このような仮説を立証する実験的な調査結

果を次のように紹介している。

図1 結果

持続期間	肯定的な結果	どちらともいえない結果	否定的な結果
7ヶ月以下	5	13	3
7ヶ月から1年	3	8	0
1年以上	8	1	0

一貫した黙読と自己選択による読書を含む

図1の調査結果を要約すると、学校内の自由読書プログラムで学習した児童生徒は、伝統的な教授（言語技術プログラム）で学習したものに比べて、41研究のうち38までが同等か、それ以上の優れた結果を出している。さらに、1年以上の調査では、自由読書プログラムのすべてが矛盾なく効果的であると結論している。

本研究では、学校や校外で自由読書をどのように推進していくか。また、児童生徒の読書意欲をどのように高めていくかに焦点を当て調査を行った。

2 調査研究の概要

この調査研究では、児童生徒の読書意欲に関する調査を次のように実施した。

(1) 調査の内容

児童生徒の読書意欲に関する調査 …………… 資料1

(2) 調査の対象 …… 県内の3校の小学校3年生(5クラス)

(3) 調査期日 …… 平成6年9月～12月(各3回)

(4) 調査方法 …… 質問紙法(資料1)

(5) 調査の概要

調査は、下のように2つのグループ(タイプI-A・Bクラス、タイプII-C・D・Eクラス)に分け、実施前、1カ月後、2カ月後の3回行った。調査項目は毎回同じである。

表2 調査のグループと実施内容

	クラス	最初の1ヵ月	2ヵ月目
タイプI	A	学校と地域の図書館が連携し、図書館の団体貸出を2週間ごとに50～100冊行い、その後、子どもの読書意欲について調査。	団体貸出を引き続き行うとともに、学級担任ができるだけ「読み聞かせ」等の読書指導を行い、その後、子どもの読書意欲について調査。
	B		
タイプII	C	学級担任が読書の意義や楽しさを話したり、「読み聞かせ」等の読書指導を行い、その後、子どもの読書意欲について調査。ただし、団体貸出は行わない。	団体貸出を行うとともに、学級担任ができるだけ「読み聞かせ」等の読書指導を行い、その後、子どもの読書意欲について調査。
	D		
	E		

(6) 調査データ …………… 資料2

3 調査の結果と考察

(1) 事前調査 (1回目) について

自主的な自由読書を推進していく一つの手だてとして、「読み聞かせ」がある。表3は、A～Eクラスについて、第1回目の調査を始める以前の、4月から10月までの「読み聞かせ」の実施状況である。

表3 「読み聞かせ」の実施状況

クラス	4月からの「読み聞かせ」の実施状況	人数
A	あまり「読み聞かせ」の読書指導は実施していない	20
C		22
D		20
B	ほとんど毎日「読み聞かせ」の読書指導を実施	40
E	週に1～2回程度「読み聞かせ」の読書指導を実施	40

① 「読み聞かせ」の実施の有無についての比較

最初に、A～Eクラスの読書の好き嫌いについて比較すると次のようになった。

ア 「本を読むことは好きですか」(Q1)について

図2 「本を読むことは好きですか」(Q1)

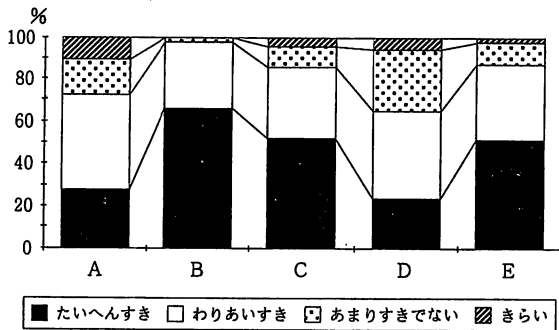


図2から、Q1については各クラスによってかなりの差がある。とくに、Bのように毎日「読み聞かせ」を実施してきたクラスでは、読書好きな子どもが多く、嫌いな子どもも少ないことがわかる。

さらに、A、B、Eクラスをすべての調査項目(Q16を除く)でM値を比較すると次のようになった。

M(Means)値とは、Q1～Q15の4択の1を4点、2を3点、3を2点、4を1点とし、Q17の2択の1を1点、2を0点として計算した平均値である。

イ A、B、EクラスのM値の比較

図3 A、B、EクラスのM値

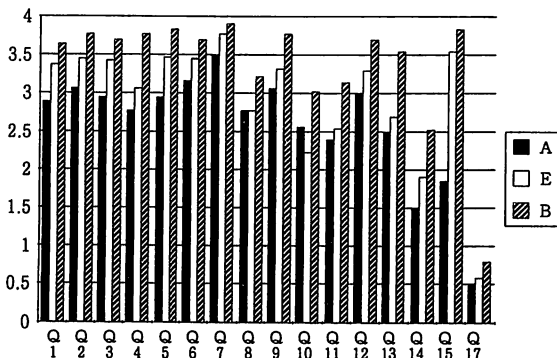


図3から、A、B、EクラスのM値を比較すると、Q1～Q17までのほとんどの調査項目(Q8, Q10以外)において、M値がA<E<Bとなっている。このことから、「読み聞かせ」等による指導が、子どもの読書意欲と関連があるのではないかと考えられる。

とくに、B、Eクラスの「先生や友だちから本を読んでもらうことは好きですか」(Q15)については、「読み聞かせ」を実施しているクラスとそうでないクラスの差が著しく、それが他のいくつかの調査項目に関係しているのではないかと考えられる。

ウ 「読み聞かせ」を実施したクラス(B)と実施していなかったクラス(A、C、D)との比較

図4・5は、「読み聞かせ」を実施したクラス(B-38名)と実施していなかったクラス(A、C、D-計56名)とのQ1～Q17(Q16を除く)のM値と1～4の割合である。

図4 BとA・C・DクラスのM値

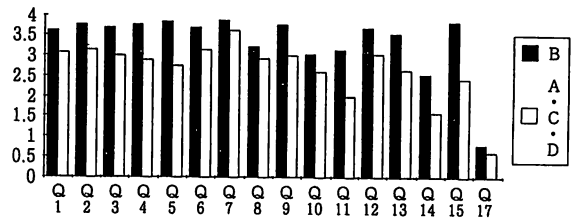


図5 BとA・C・Dクラスの1～4の割合

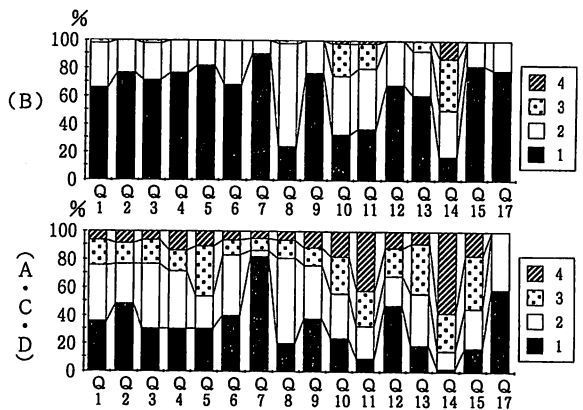


表4は、BとA・C・DクラスのM値(平均値)とSD(標準偏差)をもとにして、t検定により算出したt、df(自由度)、P(危険率)の値である。

表4 BとA・C・Dのクラスの比較(t検定)

	tの値	dfの値	Pの値
Q1	3.763	90.6	0.001 **
Q2	3.972	80.3	0.001 **
Q3	4.653	91.1	0.000 **
Q4	5.735	79.5	0.000 **
Q5	7.183	75.6	0.000 **
Q6	3.814	87.8	0.001 **
Q7	2.053	73.6	0.082 +
Q8	2.146	90.9	0.065 +
Q9	4.953	79.5	0.000 **
Q10	2.654	92.0	0.078 +
Q11	5.754	92.0	0.000 **
Q12	3.975	80.0	0.001 **
Q13	5.269	92.0	0.000 **
Q14	5.327	92.0	0.000 **
Q15	9.543	77.4	0.000 **
Q17	2.021	92.0	0.087 +

(注) 2 tailed test. ** p<0.01, * p<0.05, + p<0.1

表4から、Q1~Q17 (Q16を除く) までのすべての調査項目において、 $P < 0.01$ (**) または $P < 0.1$ (+) で有意な差があった。このことから、「読み聞かせ」が読書意欲とかなり関係があるといえる。特に、「自分の好きな本であれば、すこしづつあついても読むことができますか。」(Q7)、「あなたは読みたい本をすぐ見つけることができますか。」(Q8)、「おもしろかった本のさくしゃのべつの本を読むことがありますか。」(Q10)、「あなたが読んだ本のなかで、わすれられないほど良かった本はありますか。」(Q17) の4項目以外については、 $P < 0.01$ の水準で有意な差があった。

これらのQ7、Q8、Q10、Q17は、「読み聞かせ」の指導と直接的には関連のない要素と考えられる。たとえば、Q7は、読書意欲の低いクラスでもかなり高いM値を示しているように、本来、子どもがもっている基本的な欲求のようなものと見ることができる。

Q8、Q10は、小学校3年生としてこのレベルまで達成するにはむずかしいと考えられるとともに、「読み聞かせ」による指導とそれ以外の要素が必要だと考えられる。

表4から、「読み聞かせ」による指導は、子どもの読書意欲を高めるだけでなく、読書に前向きに取り組む姿勢を育てるといふ点でかなりの効果があると考えられる。

② 性差等について

男子と女子の読書意欲に関する性差について、B (38名) とA・C・D (計56名) の男子、女子の間でそれぞれに分散分析を行い、その後、t検定で分析をした。

表5 性差についての表

項目	クラス	B			A・C・D		
		男	女	男-女	男	女	男-女
Q1	M	3.56	3.70	-0.14	2.69	3.41	-0.72
Q2	M	3.78	3.75	+0.03	2.69	3.67	-0.98
Q3	M	3.83	3.55	+0.28	2.69	3.33	-0.64
Q4	M	3.89	3.65	+0.24	2.48	3.30	-0.82
Q5	M	3.83	3.80	+0.03	2.24	3.26	-1.02
Q6	M	3.78	3.60	+0.18	2.76	3.56	-0.80
Q7	M	3.89	3.90	-0.01	3.41	3.85	-0.44
Q8	M	3.28	3.15	+0.13	2.93	3.07	-0.14
Q9	M	3.78	3.75	+0.03	2.55	3.48	-0.93
Q10	M	3.28	2.80	+0.48	2.17	3.07	-0.90
Q11	M	3.17	3.10	+0.07	1.76	2.22	-1.46
Q12	M	3.61	3.75	-0.14	2.52	3.56	-1.04
Q13	M	3.56	3.50	+0.06	2.34	2.96	-0.62
Q14	M	2.56	2.50	+0.06	1.41	1.74	-0.33
Q15	M	3.67	3.95	-0.28	1.97	2.93	-0.96
Q17	M	0.72	0.85	-0.13	0.41	0.78	-0.37

表5は、BとA・C・DのクラスのM、Mの(男-女)の値である。

表5のBクラスでは、Mの(男-女)の値が0.48の絶対値より小さく、A・C・Dのクラスでは、Mの(男-女)の値が1.04の絶対値より小さくなっている。このことから、A・C・Dのクラスの性差はバラツキが大きく、M値の性差の値も高くなっている。

Bのクラスでは、Mの(男-女)の値が低く、調査項目によって正・負がある。これは、男子と女子の性差がほとんどなく、全体的にM値も高い。特に「おもしろかった本のさくしゃのべつの本を読むことがありますか。」(Q10)が最も性差が大きかった。

A・C・Dのクラスは、Q1~Q17 (Q16を除く) のすべての調査項目において女子のM値が男子を上まわった。特にQ8以外の調査項目においては、はるかに女子のM値が高くなっている。また、「ともだちに本をすすめられることがありますか。」(Q11)、「先生と本について話しあうことがありますか。」(Q14)、「先生や友だちから本を読んでもらうことはすきですか。」(Q15)の3つの調査項目については、男子のM値が2以下で極端に低かった。これは、男子の友だちの間で読書についての話題が少なかったことや、とくに先生との読書についてのかかわりが少なかったことが考えられる。

これは、「読み聞かせ」等の読書指導の実施に伴って、読書意欲が高まっていくことにより、男女の性差もなくなってくると考えられる。

表6 BとA・C・Dの男女間の有意差

項目	B		A・C・D		BとA・C・D	
	男女の有意差 P (危険率)	男女の有意差 P (危険率)	男女の有意差 P (危険率)	男女の有意差 P (危険率)	男女の有意差 P (危険率)	男女の有意差 P (危険率)
Q1	0.549	0.006 **	0.002 **	0.189		
Q2	0.832	0.001 **	0.000 **	0.609		
Q3	0.207	0.011 *	0.000 **	0.475		
Q4	0.181	0.005 **	0.000 **	0.113		
Q5	0.816	0.000 **	0.000 **	0.016 *		
Q6	0.512	0.002 **	0.000 **	0.790		
Q7	0.922	0.110	0.068 +	0.686		
Q8	0.577	0.592	0.394	0.591		
Q9	0.907	0.001 **	0.001 **	0.322		
Q10	0.151	0.002 **	0.001 **	0.539		
Q11	0.796	0.186	0.000 **	0.006 **		
Q12	0.619	0.001 **	0.000 **	0.540		
Q13	0.771	0.015 *	0.000 **	0.015 *		
Q14	0.843	0.237	0.000 **	0.018 *		
Q15	0.078 +	0.001 **	0.000 **	0.000 **		
Q17	0.643	0.010 *	0.081 +	0.571		

(注) 2 tailed test. ** $P < 0.01$, * $P < 0.05$, + $P < 0.1$

さらに、表6はt検定により、BとA・C・Dのクラスの男子、女子間の分析をしたものである。

表6から、A・C・Dのクラスに男女の性差があることが、t検定により明らかであることがわかる。また、BとA・C・Dのクラスの男子間にもっとも有意な差があることが注目される。特に男子については、「読み聞かせ」の読書指導がかなり効果的であると考えられる。

この調査から、読書意欲の高いクラスでは、男女の性差はほとんどみられず、読書意欲の低いクラスでは、女子の方が男子より読書意欲が高かった。

③ 調査項目間の相関について

表7は、Q1~Q15までの各調査項目間の相関を示したものである。調査対象者数は133名で、第1回目の調査データから項目間の相関をピアソン係数で算出

している。また、ピアソン係数の値が0.7以上を「高い相関がある」とし、0.4以上0.7未満を「相関がかなりある」としたものである。

表7 Q1～Q15までの相関関係

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
Q1	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q2		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q3			◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q4				◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q5					◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q6						◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q7							◎	○	○	○	○	○	○	○	○
Q8								◎	○	○	○	○	○	○	○
Q9									◎	○	○	○	○	○	○
Q10										◎	○	○	○	○	○
Q11											◎	○	○	○	○
Q12												◎	○	○	○
Q13													◎	○	○
Q14														◎	○
Q15															◎

◎ 高い相関がある ○ 相関がかなりある

表7から、「あなたは、本をよむことが好きですか。」(Q1)と「読書はおもしろいと思いますか。」(Q2)は、相関係数(ピアソン係数)が0.7124と極めて高かった。「本を読むことが好き」ということと「読書がおもしろい」ということは、ほぼ同じと考えてもよいと思われる。本が好きで面白いということは、Q7とQ14以外のすべての項目と相関があった。

また、「読み聞かせ」の指導による「先生や友だちから本を読んでもらうことは好きですか。」(Q15)の項目は、Q1、Q2、Q4、Q5、Q9、Q12、Q13、Q14と相関があり、このような項目は、「読み聞かせ」をすることにより、かなり意欲が高まっていくと予想される。

(2) 第1～3回目(時系列)の分析

① タイプI(A・Bクラス)について

事前調査後、最初の1カ月間に公共図書館から100冊程度の本をクラスに団体貸出するだけで、先生による読書指導は実施していない。また、2カ月目には、引き続き公共図書館からの団体貸出と、教師による「読み聞かせ」等による指導を1カ月間実施した。

図6 AクラスにおけるM値

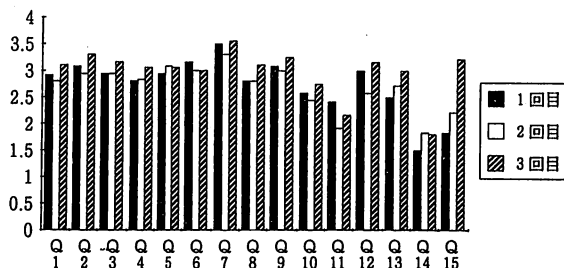


図7 BクラスにおけるM値

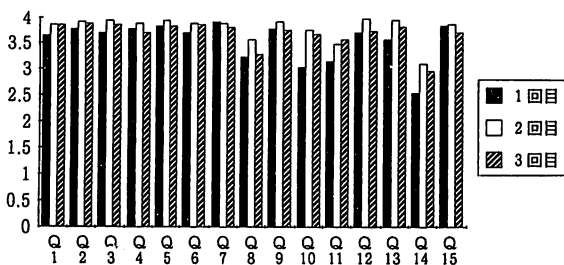


図7のBクラスは、ほとんどの質問項目において高いM値を示している。半年間の「読み聞かせ」の指導による成果であると考えられる。なかでも「先生と本について話しあうことがありますか」(Q14)だけが、他の項目よりやや低い数値である。

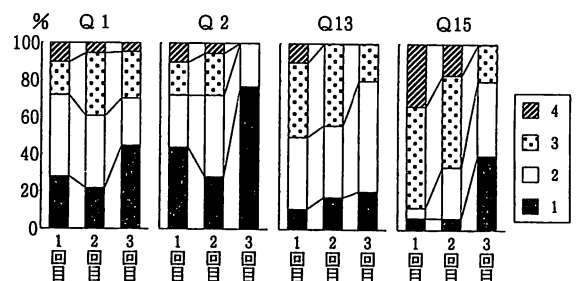
図6のAクラスは、1カ月後の調査(2回目)で、ほとんどの調査項目においてM値がやや減少しているものが多い。小学校3年生の子どもに興味があるような本を司書に選定してもらい、団体貸出としてクラスに入れたが、あまり効果がなかったようである。

しかし、2カ月後に、先生からの「読み聞かせ」の読書指導により、最後の調査では、ほとんどの項目においてM値が高くなっている。なかでも、「先生や友だちから本を読んでもらうことは好きですか。」(Q15)については、読書意欲が高まっているのがわかる。

これは、子ども達が読書を通して、先生とのかかわりが深まっているとともに、Q1、Q2の本がすぎて面白いという子どもも増えているのが図8からわかる。

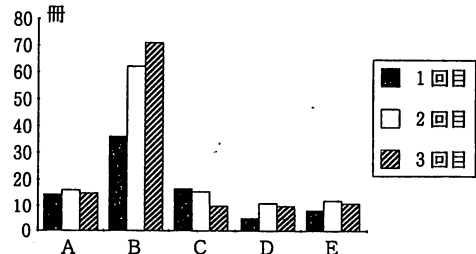
また図8のQ1、Q2から、本を読むことが「(あまり)すぎてない」や「(あまり)おもしろくない」という子どもが減っているのがわかる。読書嫌いや本離れの指導の一つとして、小学校3年生では「読み聞かせ」がかなり効果的であると考えられる。

図8 AクラスのQ1、Q2、Q13、Q15の1～4の割合



また、「あなたは前の月、どのくらい本を読みましたか。」(Q13)、「あなたは、1カ月(前の月)に何さつ本を読みましたか。」(Q16)については、特にBのクラスで顕著な結果が出ている。

図9 1カ月に読んだ本の冊数(Q16)



文部省の「読書に関する調査」(平成6年3月実施)では、小学校3年生の1カ月あたりの平均読書量が男子8.6冊、女子11.8冊で、合計10.1冊となっていることから、Bクラスの読書の活発さがわかる。他のクラスの読書量は、全国平均とあまり差がない。

② タイプII (C・D・Eクラス) について

最初の1カ月は、教師による「読み聞かせ」等の指導を行い、2カ月目には公共図書館からの100冊の団体貸出と教師による「読み聞かせ」の読書指導を実施した。

タイプIIの調査では、C、D、Eの3クラスで顕著な結果は表れなかったが、資料2から「読み聞かせ」を始めたC、Dのクラスでは、実施前よりも全体を通して肯定的な結果が表れている。Eのクラスでは、4月当初より「読み聞かせ」による読書指導を行っていたので、あまり変化はみられなかった。

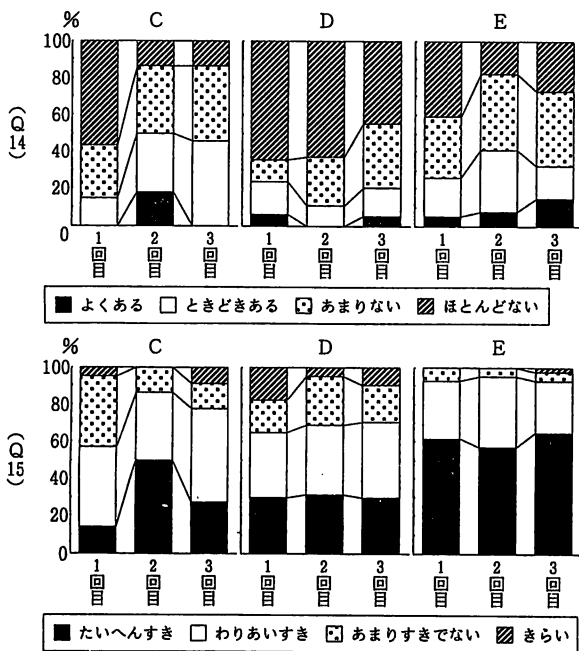
特に、調査項目の次の点については効果があったように思われる。

「先生と本について話しあうことがありますか。」(Q14), 「先生や友だちから本を読んでもらうことはすきですか。」(Q15) の項目については、どのクラスとも意欲が高まっていることがわかる。

図10は、調査項目Q14、Q15の1～4の割合である。

図10から、教師による「読み聞かせ」等の読書指導によって、先生と本について話したり、先生から本を読んでもらうことが、調査以前よりも好きになってきていることがいえる。このようなことを、少なくとも半年以上続けていくと、読書意欲の高まりにつながっていくのではないかと考えられる。

図10 C・D・Eクラス (Q14、Q15の1～4の割合)



4 まとめと今後の課題

今回の調査研究を通して、「読み聞かせ」の読書指導が、子ども達の読書意欲につながっていくことがかなり明らかになった。いくら読書環境を整えても、子ども達の読書意欲が育っていないところでは、あまり効果がない。その意味で、教師による読書指導の大切さが、いかに重要であるかがわかる。少なくとも小学

校3年生には、「読み聞かせ」による指導が、子ども達の読書意欲に大きな影響を与えているといえる。

このような「読み聞かせ」による読書指導は、学校だけでなく校外における読書意欲をも刺激するものであると考えられる。「読み聞かせ」の読書指導は、自主的な自由読書を推進していく一つの方法とってよい。

この度、調査を依頼したクラスの先生から、子どもたちが「読み聞かせ」を楽しみにするようになったとか、子どもと本について話す機会が多くなったということ聞いた。少しでも本好きな子どもを育てていく手だてとして「読み聞かせ」を行ってきたが、さらに自主的な自由読書を学校の内外で子ども達実践できるようにするには、より組織的・継続的・体系的な取り組みが必要になってくる。

特に学校においては、学校図書館の活性化やライブラリー・メディア・センターとしての役割が重要になってくる。例えば、アメリカで学校図書館が充実している学校は、その学校や自治体が裕福であろうとなかろうと、児童生徒の学習の達成度はより高くなっていると報告されている。

この調査研究では、学級担任による「読み聞かせ」等の読書指導によって、子どもたちの読書意欲が変化することを探った。さらに、読書をすべての教科の基礎的なようなもの (whole language program) としてとらえることにより、自主的な自由読書の推進に向けての実践を積んでいきたい。

おわりに

今回の調査研究に際して、ご協力を頂いた先生方や公共図書館の司書の方、大学の先生方などたくさんの方々のご指導やご援助に感謝しています。

このような調査研究が、子ども達の学習や生活を豊かにし、一人でも本好きな子どもが増えることを願っています。

(注) 今回の調査分析は、SPSS Inc.の統計データ処理のプログラム・パッケージを用いた。

引用・参考文献

- Krashen, Stephen D. The Power of Reading: Insight from the Research. Englewood CO., Libraries Unlimited, Inc., 1993.
- Lance, Keith Curry, Lynda Welborn, and Christine Hamilton-Pennell. The Impact of School Library Media Centers on Academic Achievement. Castle Rock, Colo., Hi Willow Research and Publishing, 1993.
- 文部省「読書に関する調査」(1994.3)

(資料1)

「どくしょ」についてのちょうさ

この調査は、テストではありません。みなさんが、楽しく読書ができるように調べるものです。あなたの名前を書く必要はありませんし、学校やクラスの名前を発表することはありません。あなたが思っているまますべてを答えて下さい。この調査で、本とは教科書、参考書、マンガ、雑誌をのぞきます。わからないところは先生に聞いてください。

まず、男女を○でかこんでください

1 男、 2 女

- 次のしつもんについて、もっともあてはまるものの番号を○でかこんでください。
- Q1 あなたは、本を読むことが好きですか。
(1 たいへん好き、2 わりあい好き、3 あまり好きでない、4 きらい)
- Q2 読書はおもしろいと思いますか。
(1 たいへんおもしろい、2 すこしおもしろい、3 あまりおもしろくない、4 おもしろくない)
- Q3 あなたはもっと読書したいと思いますか。
(1 もっとしたい、2 もう少ししたい、3 あまりしたくない、4 したくない)
- Q4 もう一度読んでみたいと思う本はありますか。
(1 たくさんある、2 すこしある、3 あまりない、4 一さつもない)
- Q5 みんなが読んでいる本を読んでみたいと思いますか。
(1 思う、2 少し思う、3 あまり思わない、4 思わない)
- Q6 本でいろいろなことを知りたいと思いますか。
(1 たいへん知りたい、2 すこし知りたい、3 あまり知りたくない、4 知りたくない)
- Q7 自分の好きな本であれば、少しぶあつい本でも読むことができますか。
(1 できる、2 少しできる、3 あまりできない、4 できない)
- Q8 あなたは読みたい本をすぐ見つけることができますか。
(1 できる、2 すこし時間がかかる、3 かなり時間がかかる、4 できない)
- Q9 学校で読書する時間についてどう思いますか。
(1 ぜひほしい、2 できるだけほしい、3 あまりほしくない、4 いらない)
- Q10 おもしろかった本のさくしゃのべつの本を読むことがありますか。
(1 よくある、2 ときどきある、3 あまりない、4 ほとんどない)
- Q11 ともだちに本をすすめられることがありますか。
(1 よくある、2 ときどきある、3 あまりない、4 ほとんどない)
- Q12 おもしろい本の話先生やともだちから聞きたいと思いますか。
(1 思う、2 すこし思う、3 あまり思わない、4 思わない)
- Q13 あなたは前の月、どのくらい本を読みましたか。
(1 ほとんど毎日読む、2 週に3～5日くらい読む、3 週に1～2日くらい読む、4 読まない)
- Q14 先生と本について話しあうことがありますか。
(1 よくある、2 ときどきある、3 あまりない、4 ほとんどない)
- Q15 先生や友だちから本を読んでもらうことは好きですか。
(1 たいへん好き、2 わりあい好き、3 あまり好きでない、4 きらい)
- Q16 あなたは1ヵ月(前の月)に何さつ本を読みましたか。 さつ
- Q17 あなたが今までに読んだ本のなかで、わすれられないほど良かった本はありますか。
(1 ある、2 ない)
・「ある」とこたえた人は、本の名前と良かったところを書いてください。

(本の名前)

どのようなところが良かったですか。

※ちょうさにこたえていただき、ありがとうございました。

Table with 17 rows (Q1-Q17) and 16 columns (A-E, 1-3). Contains percentages and numerical values for each class and response category. Includes a final row for '調査人数' (Survey Count) and '平均冊数' (Average Number of Books).